

水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成27年6月23日
タイトル	ぜんぶ手で植えたよ！
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成27年6月15日（月）福山市立駅家西小学校5年生64名が、駅家西学区内の町内連合会会長や町内会長の協力で水土里ネット福山の組合員の岡田国彦さん指導により田植えを体験しました。

平成27年5月15日に籾蒔きをし、5年生全員で水まきをして育苗していた苗を植えることになりました。まず、学校で子ども達に水土里ネット福山から、今回の農業体験をきっかけに農業用水に関心をもってもらい、豪雨などの災害時や日頃の生活のなかで、ため池や水路に対する防災意識を高めてもらおうと、子ども達に農業用水路の防災について話をし、福山市上下水道局の災害備蓄用飲料水「ばらのまち福山の水」を配布しました。



しっかり話を聞いています！



防災意識が高まりました！

駅家西小学校の鳥羽先生より、地域の方々のご協力によって、毎年5年生が継続して貴重な農業体験ができることや地域の方に感謝の気持ちを持って接すること、それは挨拶をしっかりとすること、話を聞く時は「目と心」を向けて聴くこととお話されました。そして、駅家西小学校からすぐのほ場へみんな歩いて向かいました。ほ場には地域の方が大勢集まっておられ、子ども達は、みんなで「お願いします。」と大きな声で挨拶をしました。

連合町内会長から「ちょうど1ヶ月前に蒔いた籾が成長し、田植えができるようになりました。土の感触を楽しんでください。」と挨拶がありました。



子ども達は、裸足になり田んぼへ入ります。殆どの子が田植えは初めての子ばかり、最初は土の感触に気持ち悪いと歓声があがっていましたが、すぐに慣れて、気持ちいいという声が聞こえてきました。

苗を3本から4本持って植えるよう教わったのですが、ドンドン増えていって、地域の方が「多いよ」と注意しておられました。

ほ場の真ん中から二つに分かれて、後ろに下がって植えていきます。三列ほど植えると慣れてきて植えるスピードが早くなり、どっちが早いか競争のようになりました。後少しのところまで苗がなくなってしまい、急遽、苗を追加して持ってきてくださいました。子ども達が、ちょっと欲張って少しずつ多く植えてしまったようです。

500㎡のほ場を全て子ども達だけで2時間ほどで手植えました。



虫がいたよ！



みんな、すぐ上手に植えるようになりました！

全部植えたら、ほ場からあがり近くの用水路で手と足を洗いました。「今日は大人と一緒にだから用水路に入ってもいいけど、いつもは絶対に入らないでください！」と呼びかけました。

最後に、子ども達から大きな声で「ありがとうございました。」と挨拶があり、連合町内会長から「ここの田んぼは、学校から近く通学路に隣接しています。これから4ヶ月間、登下校の時に稲の成長を見守ってください。」と挨拶されました。

みんな、一生懸命田植えをしたから
手も足も服も泥だらけ！
一斉に用水路で洗いました！



目印のロープを引っ張って
「もうちょっとこっちじゃ。
たわんで。」とか目印の竹を
「さばって！」と方言が飛び
交っていました！
キョトンとしている子ども
もいました。

備後弁講座

たわん → 届かない
さばって → 引っ張って

子ども達は、町内会長さんをはじめ地域の方々の協力によって、靱蒔きから育苗、田植えと昔ながらの農業体験をしました。今回は、レポーターもズボンの裾を捲り取材しました。

稲刈りまで、稲の成長を見守り、稲刈りもすべて手作業ですることとなります。この貴重な体験を通じて、農業や環境など様々な分野に関心を広げていってほしいです。

水土里ネット福山では、引き続き子ども達の農業体験の様子を取材したいと思います。